

や小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)素案に対するパブリックコメントの実施  
 ◎ アドプト・プログラム実施要綱の制定

**平成21年度決算  
 累積赤字一部解消  
 (累積赤字額 5億36百万円)**

市民の皆さんのご協力を得ながら、平成21年度の行政改革については、小松島市行政改革「集中改革プラン」改定時より約2億8千万円以上多い、約12億65百万円以上の効果額を挙げることができました。

歳入では、不況による市税徴収総額の減少などがありました。歳入の確保に努める一方、歳出においては、職員数の適正化、事務経費等物件費の削減や、高金利の地方債を低金利なものに借り換えるなど、借金の返済にあたる公債費の抑制に努めた結果、平成21年度の単年度収支は、昨年度より約45百万円多い約47百万円の黒字となり、累積赤字額を一部解消することができました。

今回市民の皆さんにお知らせするのが、平成21年度決算を基にした、図中Cのラインです。

平成21年度の単年度収支は、黒字ではありますが、実質収支

は依然5億36百万円の赤字であり、現在計画中の市内公共施設等の耐震化事業の事業費や、各特別会計への繰入金・扶助費等の増加が見込まれ、まだまだ予断を許さない状況です。

しかし、こうした中で、行政改革の効果は現れており、昨年8月の広報でお示した図中Bのラインに比べ約35百万円、非常事態宣言時図中Aのラインと比べても約13億6千万円収支が良くなっております。

なお、今回お示しする数値については、現時点での結果および予測に基づくものであり、今後の国の動向(政策変更)や社会経済情勢で大きく変わることも想定されます。

**今後も市民の皆さんの協力のもと小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)を推進します**

現在の日本経済は、ギリシャの財政危機による信用不安の拡大を受け、国の財政規律の引き締めと財政リスク解消に向けた取り組みが、国際的にも強く求められる中、6月22日に財政再建の道筋を示す「財政運営戦略」が閣議決定されました。

本市といたしましては、こうした国の財政方針や動向の推移

を見極め、市の行財政運営の方向性に適切に反映させていく必要があり、本年度から小松島市行政改革「集中改革プラン」(第二幕)を積極的に推進し、「歳入に見合った歳出構造」への転換を念頭に柔軟かつ効率的に対応できる足腰の強い「簡素で効率的な市役所」の構築に向け、不断の行政改革を推進してまいります。そのためには、行政だけでなく市民の皆さんのご理解とご協力が不可欠です。

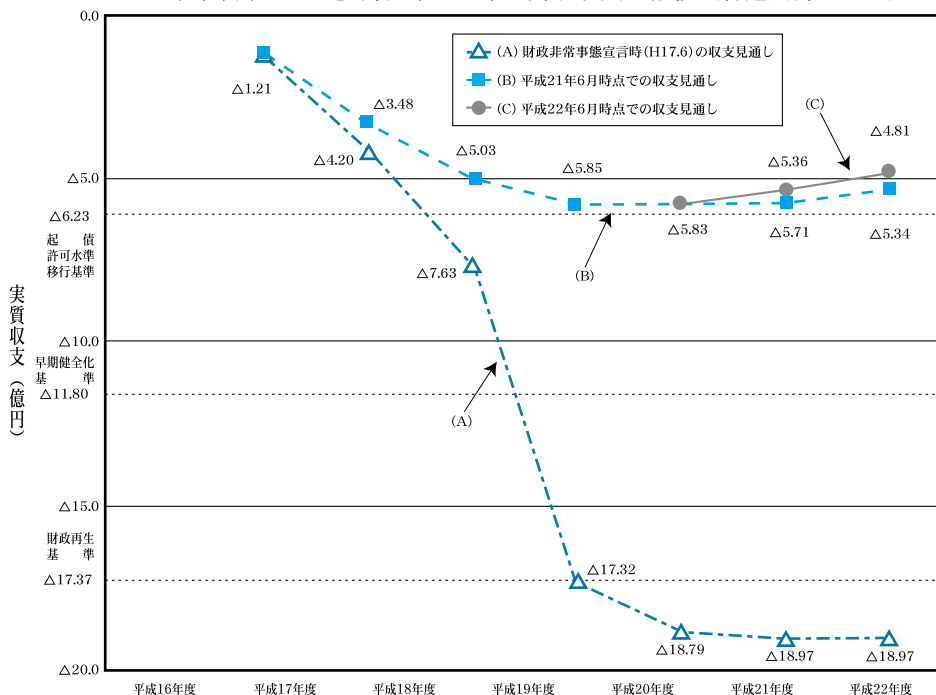
平成21年度 健全化判断比率の状況 (速報値) 単位(%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	6.16	(4.20) -	算定中	算定中
早期健全化基準	13.59	18.59	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	

平成20年度 健全化判断比率の状況 単位(%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	6.78	(5.33) -	20.7	182.5
早期健全化基準	13.61	18.61	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	40.00	35.0	

「集中改革プラン」計画における財政収支の推移 (普通会計ベース)



こうしたことから、今後とも市民の皆さんには積極的に情報提供を行うとともに、対話を基に努めてまいりますので、今後よりよろしく願います。

